

教職コンソーシアム通信

学びの架け橋



人にまっすぐ。
大阪教育大学

01 オープンキャンパス開催

02 リレーエッセイ

03 加盟校出身学生の紹介

04 交流事業の紹介

06 加盟校の取組紹介

07 大教大トピックス／編集後記

3年ぶりにオープンキャンパスを対面開催

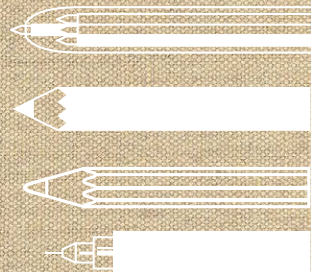
オープンキャンパス2022を、7月30日(土)はオンライン形式で、31日(日)は実に3年ぶりとなる対面形式で開催しました。





RELAY ESSAY

リレーエッセイ



七転び八起き

大阪府立清水谷高等学校長 日笠 賢

18歳まで育ったのは岡山県津山市です。予備校や進学塾も無く、勉強を教えてくれるのは学校の先生と通信添削だけでした。両親に勉強のことを言われた記憶はありません。趣味人の父に連れられて、休日は高校生になっても、春は山菜摘み、夏はアユ獲り、秋は松茸狩り、冬は鳥撃ちなどに行っていました。高2の夏休みには友人3人と4泊5日で野宿しながら出雲大社まで自転車旅行に出かけたこともあります。授業で聴いたことは忘れない性質で、全教科で成績は良く、中学校では体操部の主将をしながら陸上の競技会に出たり、高校の柔道大会では最優秀選手に選ばれるなど、運動もそれなりにできて、小、中、高で児童会長や生徒会長をしました。もめ事や喧嘩の仲裁もしました。そこから何となく法曹関係を意識するようになり、父が学生生活を過ごした京都への憧れから、大学受験は京都大学の法学部をめざしました。ところが、高3の受験勉強の追い込みの最中に同級生の女の子と一緒に自習するようになり、いつしか恋愛に。「色づけば落ちる」熟柿の如く見事に落第しました。

慌てて進路を考え直し、「どうせやり直すなら東京で勝負してこい」と諭されて、S予備校の午前部へ。恐ろしく面白い授業をする講師陣と、周り全てが東京大学をめざす集団の中で必死に勉強して、模試成績も全国2桁順位まで上がり、流れのまま東京大学をめざしました。

一浪で入った東京大学では、最初の2年間に駒場の教養学部で学びます。クラスメイトには、最高裁判事や、弁護士、各省庁の官僚、学者、銀行の頭取など世間的成功者もいれば、道半ばで思わぬ挫折をした者も少なからずいます。クラス会が40年続いている、社会的な立場に関わりなく、今も何でも言える仲間であることが財産だと思っています。

留年はし難い家庭環境だったので、内定の早かった都市銀行に就職しました。東京駅前の支店に配属されて、人に頭を下げることから始め、一通り仕事を覚えた頃、ドイツへの留学を内示されました。人生初の飛行機と海外を好奇心で楽しみ、ケルンの学校で第二外国語のドイツ語を鍛え直して、ドイツ銀行で証券業務などを学びました。美術館巡りやオペラ鑑賞などもこの時に覚

えました。ドイツ人の友人の帰省に便乗してベルリンの実家に泊めてもらい、当時の東西国境やベルリンの壁を見に行き、「この壁がなくなるのは地球崩壊（核戦争）の時だろう」と聞いた記憶があり、しばらく後に壁が無くなった時は心底驚きました。帰国して為替ディーラーや、人事部で採用と労務管理の仕事をした後、今度は家族と一緒にロンドンへ赴任しました。ヨーロッパのみならず、南アフリカやロシアへも出張して、投融資をしたりしました。帰国後は、大阪市内で支店長の経験もしました。再び人事部に戻ったところ、バブル崩壊の最後の嵐に巻き込まれ、合併と1千人の人員リストラを果たして自主退職しました。誘いのあった医療法人でマネジメントの仕事をした後、電子楽器の会社に転職しました。更に学校法人に移り、大学の新学部設置等の仕事をしているときに、大学生の中退の多さに驚き、高校の進路指導はどうなっているのかと、大阪府の公募校長に応募して府立高校の校長になりました。今は2つ目の高校に勤務しています。

私は教員経験もなければ、教壇に立ったこともありません。これまで「七転び八起き」とも言える人生ですが、世の中が大きく変化し、何が起こるかもわからない多文化共生の国際社会に向けて、私の経験を伝え、生かせたらと思います。モットーは「勇気、忍耐、楽天性」です。物事を「決める」ということは、他を「捨てる」ことだと考えています。母校の高校の校訓「畏天敬人」は判断に迷うときの道標です。道草も悪くないと思います。

教育は未来を創る仕事です。今は、同僚の先生方と一緒に、夢多き高校生の無限の可能性を伸ばせる環境づくりに懸命に取り組む日々です。



日笠 賢 ひかさ けん

大阪府立清水谷高等学校長



加盟校出身学生の紹介

いしだ りこ
石田 利子 さん

学校教育教員養成課程 小中教育専攻 学校教育コース 2回生
清水谷高等学校 令和3年3月卒業

高校時代の思い出は

部活動と生徒会活動が思い出です。部活は水泳部のマネージャーとして練習や大会で選手のサポートをし、生徒会は友人からの誘いで2年から入り、主に学校行事の企画・運営をしました。どうすればもっと良くなるか、自分にできることは何かを常に考えて、行動に移す大切さを学びました。両立させるために苦しい時期もありましたが、どちらも本当に楽しくてやりがいのある活動で、自分で決めたことだからこそ最後まで頑張りがくことができました。何物にも代えがたい経験を共に過ごした当時の仲間とは、大学生になった今でも時々会ってます。

なぜ学校教育コースをめざしたのか？または将来の目標

個別教科ではなく学校教育そのものや、学校現場における教育課題へのアプローチ法を学んでみたいと思い、学校教育コースを選びました。3回生のときに教育学、心理学、道徳教育学のなかから専攻分野を決めるのですが、私は道徳教育学を専攻したいと考えています。将来は、小学校教諭として子どもと共に学び、また学校図書館司書教諭として、図書室の利用や読書の面白さを伝えられる教師になることが目標です。

学校教育コースの良いところ

学校教育コースでは、教科の枠にとらわれない幅広い学びができます。コースのみんなは個性が強く、根が真面目で優しいです。講義では、グループワークも活発に行われ、何より自分らしくいられます。また、中学校・高校の副免許状（英語または社会）や、私のように図書館司書の資格取得を考えている学生もおり、進路に応じた多様な学びが得られることも魅力の一つだと思います。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

課外活動は、大学祭準備会に所属しています。3年ぶりの対面での神宵祭（大学祭・11月開催）の開催に向けて、みんなで力を合わせて頑張っています。アルバイトは、個別指導の学習塾と飲食店を掛け持ちしています。全く異なる職種

それぞれから学ぶことが多く、職場環境にも恵まれているため無理なく働けています。2回生になってからは、学校インターンシップや介護等体験に参加し、他にもピアノ教室と自動車教習所にも通い始めました。大学生になってから始めた慣れないことばかりで忙しい毎日ですが、とても充実しています。

おすすめの勉強法

集中できる環境を自分で整えることです。私が受験生だった時は、学校の自習室、塾の自習室、自宅の自室などと勉強する場所をよく変えていました。集中力も続き良いリフレッシュにもなるので、大学生になってからも試験期間中はそうしています。そして、この大学に行きたいという目標や、こんな自分になりたいというイメージを持つことです。そうすれば、勉強も前向きに取り組めます。受験勉強を通して、自分がすべきことに向き合えた経験は自分の力になるはずです。辛い時期もあるかと思いますが、周りとは比べすぎず、モチベーションを保ちながら頑張ってください。

大学生生活を有意義に過ごすには

自分の興味のある分野だけでなく幅広く学び、何事にも積極的に挑戦することによって有意義なものになると思います。大学生は良い意味で自由で、様々なことに自己責任で取り組みます。何に重きを置くかは人それぞれだからこそ面白く、価値観の異なる人との出会いや関わりを通して刺激を受けながら、自分らしさを見つけていく時期だと思います。私は今年、オープンキャンパスのスタッフや、夏季休暇中の附属図書館でのアルバイトをさせていただき、大学生生活の限られた時間の中で、これからも自分の好きなことに素直に挑戦していきたいです。



みずおち かすき
水落 和輝 さん

教育協働学科 理数情報専攻 自然科学コース 2回生
豊中高等学校 令和2年3月卒業

高校時代の思い出は

部活動や日々の生活はもちろんですが、何といっても体育祭や文化祭がとても楽しかった記憶があります。勉強だけでなく行事にも真剣な校風のため、準備期間からみんなで作り上げていく一体感に揺さぶられたことを覚えています。特に印象的だったのが、3年生のときの文化祭です。クラス発表の演劇と有志で出場する昼夜祭に参加したのですが、これらすべてが生徒の手によって一から作り上げて学校全体で盛り上がり、そして文化祭が終わると、この上ない達成感がありとても楽しかったです。

なぜ自然科学コースをめざしたのか？または将来の目標

将来は高校の生物の先生になりたいと考えています。しかし、高校範囲の生物に留まることなく生物をもっとより深く勉強したいという思いもあり、理数情報専攻自然科学コースを選びました。自然科学コースでは自分の興味のある分野について、学びを深めていける充実したプログラムや大学院に進学する学力が養われるだけでなく、教員になるためのプログラムも選択できます。

自然科学コースの良いところ

自然科学コースの良いところは科学の4分野すべてを勉強できるという点です。他大学の理学部などでは専攻が決まっており、大学に入ってから興味のある分野が変わったときに変更することが難しいですが、大阪教育大学の自然科学コースではどの分野にも転向することができます。全国でも数少ない地学を履修できるのも魅力です。

クラブ・サークルは何をやっていますか？

または大学生活で頑張っていること、楽しいこと

吹奏楽部に所属しています。音楽をサマーコンサートや定期演奏会に向けてまとめていく過程が楽しく、充実しています。先輩・後輩の垣根を越え、一緒に遊

びに行ったり、旅行に行くこともあります。部活は、キッチリとメリハリをつけて活動しているため、勉強やプライベートとの両立もできます。自分の音を磨く日々の練習は地味ですが、同じ目標を持つ仲間と1つの作品を作り上げていくことはとても楽しいです。

おすすめの勉強法

どの教科においても、なぜそうなるのかを追求することが、おすすめの勉強方法です。私は、単なる解法の暗記ではなく、なぜその解き方の選択をしたのかを説明できるように練習をして、大きく成長することができました。よく国語は感覚で解くから点数が安定しないと言いますが、解答に至るまでの文章の論理展開のプロセスを分析することによって、記述式の問題でも安定して点数が取れるようになりました。また1つでも詰めの甘い分野や科目が残っていると、それが自信を持たない不安材料になるので苦手分野を作らないことも重要です。

大学生生活を有意義に過ごすには

様々な大学の同じ世代の人たちと交流することだと思います。現在、大阪教育大学の吹奏楽部以外に大阪大学のサークルにも所属しています。他大学のコミュニティに所属するとまた違った世界を見ることができ、近畿圏のあらゆる大学の友人が増えました。サークルを通して仲良くなった友人たちと旅行に行ったり、他大学の学祭ステージに出演したり、大教大だけでは味わえない学生生活を送ることができます。自分のやりたいことを実現できる環境を自分で変えたり作ったりすることが大切です。





交流事業の紹介

EXCHANGE PROGRAMMES

教師をめざす高校生の 育成プログラム 「教師にまっすぐ」がスタート

教師をめざす高校生が、夢を大きく膨らませ、志をより確かなものにするためのプログラム「教師にまっすぐ」が、7月24日(日)にスタートしました。これは、大阪府立高校42校で構成する府立高校教職コンソーシアム加盟校または本学附属高等学校の2年生を対象に実施するもので、7年目となる取組です。受講生約50人は、12月までの全6回にわたり、さまざまなプログラムに挑戦します。

オンラインで実施した開講式では、坂本俊哉学長補佐が本プログラムの概要について説明を行い、「よく学び、よく考え、しっかりと表現することで、新しい進路を選択するきっかけにしてください。そして、同じ夢や志をもっている仲間との交流を深めてください」とメッセージをおくりました。

開講式に続いて行われた第1回では、元府立高校校長の川端康之入試アドバイザーによる「先生になるには」と題した講義を行い、参加者に質問を投げかけ、チャットに書いてもらったコメントを具体的に取りあげながら、教員養成大学で学ぶことの意味や、大学生が学んでいる授業づくり・生徒指導などの紹介、高校時代にしておいてほしいことについて説明しました。

第2回は7月30日(土)にオンライン、7月31日(日)に対面で行われたオープンキャンパス2022への参加、第3回は8月25日(木)～31日(水)にオンデマンド講義を行いました。

10月には第4回課題研究と第5回キャンパスガイドへの参加を予定しており、修了式を行う第6回は12月24日(土)を予定しています。



府内高校教員を対象に 「教師の学び舎」がスタート

「教師の学び舎(第13クール)」をオンラインで6月から8月にかけて3回開講し、府内の高校教員約30名が受講しました。

これは、府立高校教職コンソーシアムの加盟校及び大阪府内の公立高校の教員を対象に、教職大学院レベルの講座を受講し、次代の大阪の教育を牽引するリーダーの育成支援を目的に実施するもので、今年度は「新学習指導要領の着実な実施のために～ Society5.0時代の教育を見据えて～」をテーマに開講しました。

第1回は6月11日(土)、学校教育部門の八田幸恵准教授が「指導と評価の一体化、観点別評価」と題し、評価の目的や必要性、これまでの歴史、そして今年度から高等学校において導入されている「観点別評価」とは何かという、教育現場で現在実施されている評価の基礎となる部分について網羅的な解説を行いました。

第2回は7月16日(土)、大学院連合教職実践研究科の庭山和貴准教授が「個別最適化に向けた学習の創造と子どもの支援」と題し、学習指導における目標(何ができるようになるか)を定めた上で、指導方法を選択することの大切さやその達成を妨げる要因などを説明し、グループワークを活用して情報共有や議論を行いました。

第3回は8月27日(土)、大学院連合教職実践研究科の寺嶋浩介准教授が「ICTを活用したアクティブラーニング」と題し、授業においてICTの活用が求められている背景、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善、そして1人1台端末を活用した授業のイメージについて説明したのち、受講生はグループワークで情報共有や議論を行いました。

なお、次回の教師の学び舎は、12月17日(土)に八田准教授が第1回の発展形として「観点別評価の実践」と題した特別講座を行う予定です。



自己紹介する八田准教授



EXCHANGE PROGRAMMES

教師をめざす高校生の思いを発信
コンクールの作文を募集しました

募集テーマは『未来に向かってー教育・夢・感動』
～作文コンクール Leading to the Future2022～

大阪教育大学と府立高校教職コンソーシアムは、
教職に興味や関心のある府立高校等の1、2年生を
対象に、作文を募集しました。

このコンクールは、作文を書くことを通して、生徒が現在と未来の自分について思いを巡らせ、教職へ

の夢や覚悟をより確かなものとするここと、次代を築く多くの高校生・支援学校生の思いや考えを共有し発信することを目的に実施するもので、7年目の取組となります。12月の表彰式へ向け、現在審査を進めています。

先生との関わりで感動したこと、学んだこと、そして理想の
学校園とは?を考え記述します。

〈実施概要〉

応募資格	府立高校・特別支援学校高等部及び大阪教育大学附属高等学校（以下「高校等」という。）の生徒のうち、教職に興味や関心のある1、2年生
審査	校内選考（各高校等）後、大阪教育大学、府立高校教職コンソーシアム、大阪府教育委員会で構成する審査委員会において最終審査
要件	400字詰め原稿用紙3枚（1,200字以内）
表彰	最優秀賞1作品、優秀賞数作品、佳作数作品
賞品	最優秀賞（賞状、トロフィー、図書カード1万円分、大阪教育大学キャラクターグッズ）、 優秀賞（賞状、トロフィー、図書カード5千円分、大阪教育大学キャラクターグッズ） 佳作（賞状、大阪教育大学キャラクターグッズ）



主催  国立大学法人 大阪教育大学 府立高校教職コンソーシアム

作文コンクール Leading to the Future2022 募集ポスター



加盟校の取組紹介

MEMBER HIGH SCHOOLS'
PROGRAMMES

藤井寺高校 — 3つの交流活動 —

藤井寺高校は1974年に府立第87校として開校しました。2018年に世界遺産登録された古市古墳群の一角に位置しています。



緑豊かな古墳の森に囲まれ、古代から引き継ぐ文化の担い手として、地域に密着した「普通科」校ならではの特色を生かし、「知」「徳」「体」の育成を図るとともに、生徒が「藤高（ふじたか）」生のプライドを持って行動することができる学校をめざし教育活動を推進しています。そこで、本校が取り組んでいる3つの交流活動について紹介します。

1. 藤井寺支援学校との交流

各クラスから4名ずつ選ばれた交流委員と生徒会役員が中心となって交流事業を行います。毎年5月に互いの生徒会役員と交流委員が1



年間の活動を確認するとともに、体育祭競技の練習をします。また、本校1年のホームルームでは支援学校の教員による学校、生徒の紹介と車椅子の操作指導、乗車体験が行われます。ほとんどの生徒が初めて車椅子を体験し、扱いの難しさに驚いています。6月の体育祭では互いに訪問し、エールを送ったり一緒に競技をしたりして汗を流します。7月は支援学校での授業交流です。単に藤高生が授業参加するだけでなく、ディスカッションを通じて両校の生徒が理解しあうとても良い機会になっています。また、給食をともにすることもあります。9月の藤井寺高校文化祭には支援学校生全員を招待し、交流委員がバディとなり校内を案内します。支援学校生向けの企画も準備されており、とても和やかな雰囲気です。11月の支援学校文化祭には藤高生が訪問し、吹奏楽部のミニコンサートやダンスなどの音楽交流が行われます。12月のスポーツ交流ではハンディをつけながらいろいろな競技を経験します。“ボッチャ”をした時には後に東京パラリンピックの選手として活躍した生徒とも競技をすることができ、レベルの高さに驚かされました。年が明けても1月の作品展、2月のカラオケ大会と交流が続き、3月の卒業式では手作りのメッセージカードを互いに送り、卒業を祝っています。こうした取組が、人格と個性を尊重し支え合う「共

生社会」を学ぶ上でとてもよい機会となっていることが、生徒たちのアンケートからも伝わってきます。

2. 藤井寺北小学校との交流

10年前から続いている「学習ボランティア」です。「子どもが好きで、学習支援に興味があり、小学生にやさしく丁寧な指導ができる人、人のために何かをしたいと思っている人」の募集が北小学校からあり、これに応募した藤高生がボランティアとして登録されます。年間8回の「放課後学習会」では、プリントの答え合わせなどの学習支援を行っています。より強い関わりを持ちたい生徒は地域が行っている「遊び」の支援にも参加します。また、北小学校運動会の入場行進や開会式のために本校の吹奏楽部が訪問して演奏をすることもありました。なお、一定の時間を超えてボランティアに参加した生徒には、教科「チャレンジタイム」科目「体験活動」の学外単位を認定しています。

3. 国際交流



夏休みの期間にオーストラリアまたはニュージーランドで、ホームステイをしながら10日から2週間の語学研修や現地高校生との交流に取り組みます。教職員と同窓会、PTAが国際交流協議会を組織し、生徒たちの語学研修を支援しています。生徒たちにとっては、この研修で得た経験が後の進路実現に大いに役立っています。また、この協議会は、海外からの留学生の受け入れや藤井寺市海外交流委員会から委託された諸事業に対しても協力、支援を行っています。

これから

本校ではこのような交流活動を通じて、共生社会の構成員として地域に根ざし活躍するとともに、国際社会にも通用する人材の育成に取り組んでいきます。

大阪教育大学が「教員養成フラッグシップ大学」に指定されました

令和4年3月9日(水)、大阪教育大学は文部科学大臣から教員養成フラッグシップ大学の指定を受けました。

教員養成フラッグシップ大学とは、「令和の日本型学校教育*」を担う教師の育成を先導し、教員養成の在り方自体を変革していくためのけん引役として、先導的・革新的な教員養成プログラムや教職科目の研究・開発、全国的な教員養成ネットワークの構築と成果の展開、取組の検証を踏まえた教職課程に関する制度の改善への貢献等の役割を果たす大学のことです。

指定書の交付式では、末松信介文部科学大臣は挨拶の言葉として「各大学が有する特色を生かした、教員養成フラッグシップ大学としてふさわしい、優れた構想を示していただいたことに敬意を表する。今後は、全学的な事業実施体制を構築し、多様なステークホルダーと連携しながら我が国の教員養成の課題解決につながるモデルを創出していただくことを期待する」と述べました。

栗林澄夫学長は、「本学は、これまで抜本的な大学改革や、地元教育委員会や産業界との連携強化を着実に推進してきた。令和6年には、大阪市との協働により設置する施設『大阪アドバンスト・ラーニング・センター(仮称)』の完成を控えており、このセンターを拠点に、教員養成フラッグシップ大学として、教員養成の高度化に全学を挙げて取り組み、大阪から『令和の日本型学校教育』をけん引していく所存である」と展望を述べました。

*令和の日本型学校教育は、デジタル化・オンライン化など急激に変化する社会を背景として、子どもたちの知・徳・体を育む「日本型学校教育」をさらに発展させ、すべての子どもたちの可能性を引き出し、個別最適な学びと協働的な学びの実現をめざす、新しい時代の学校教育のこと。



オンライン交付式での記念撮影の様子

(上段中央が
大阪教育大学、
上段左は末松信介
文部科学大臣)

役職等の情報は、ウェブページ掲載当時の情報です。

3年ぶりに春の学園祭「五月祭」を対面開催

春の学園祭「第72回 五月祭」を、5月14日(土)と15日(日)に開催しました。昨年度と一昨年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から開催ができず、今回は実に3年ぶりの開催となりました。

例年、4月に入学した1回生が各専攻・コースに分かれて、飲食物を取り扱う出店が立ち並びますが、今回は状況を鑑み学内者のみの入場とし、かつ事前の取り決めで飲食物を全く取り扱わないこととなりました。そのような背景から、これまでの学園祭とは違う、全く新しく生まれ変わった学園祭という意味を込めて、「REB ∞ RN (英語「REBORN」をもじったもの)」をテーマに掲げ、催されました。

当日は、出店やクラブ・サークル等の課外活動団体による説明会、新入生歓迎企画が講義室で行われ、ステージではパフォーマンス系の団体によるバンド演奏やアカペラ、演舞等の成果発表が行われました。



五月祭の様子はYouTubeで公開中



編集後記

いよいよ「教師にまっすぐ」も中盤に差し掛かってきました。中盤からは、夢に向かって頑張る高校生と同じ夢を持ちつつそれを叶えようと頑張る大学生の交流の機会が増え、毎年その姿には胸うたれます。修了式に向かっ

て「頑張れ!」とみんなでエールを送りましょう。

追伸 大阪教育大学では、教職経験者の方から「教師冥利に尽きるエッセイ」、逆に生徒目線の「恩師への手紙」を集めて情報発信もしています。今回このエッセイを原作としてボイスドラマを大学生との協働で作成しました。キャリア教材として様々な場面で活用いただけたらと思います。ぜひご覧ください。(H.K)

エッセイについては大学公式ウェブサイトでご覧いただけます。



府立高校教職コンソーシアムは、すぐれた資質を備えた次代を担う魅力ある「教員」を育てるために、本学をはじめとする教育系大学と連携し、「教員になること」を具体的にイメージできる機会を与えることを目的として、大阪府内の32府立高等学校間で平成26年末に結成されました。現在は42校が加盟しています。



大阪教育大学のSNSアカウント



公式Twitter

<https://twitter.com/OsakaKyoikuUniv>



公式Facebook

<https://www.facebook.com/OsakaKyoikuUniv>



公式YouTube

<https://www.youtube.com/user/OKUChannel>



公式Instagram

<https://www.instagram.com/osakakyoikuuniv>



イベント情報やニュースなど、大教大の「今」を発信しています。ぜひフォローしてください。